

令和 7 年上半期における刑法犯認知・検挙状況について【暫定値】

1 刑法犯認知・検挙状況

	R7.6末	R6.6末	増減数	増減率(%)
認知件数	365,963	349,907	16,056	4.6
検挙件数	141,195	133,489	7,706	5.8
検挙人員	94,406	90,460	3,946	4.4
検挙率(%)	38.6	38.1	+0.5ポイント	

2 主な特徴点（別紙参照）

(1) 認知状況

- 令和 7 年上半期における刑法犯認知件数は36万5,963件で、前年同期比で4.6%増加した。このうち、詐欺の認知件数は3万2,413件で、前年同期比で19.4%増加しており、刑法犯認知件数の増加に対する寄与率^{*}は32.8%となった。また、窃盗犯の認知件数は24万3,529件で、前年同期比で2.9%増加しており、刑法犯認知件数の増加に対する寄与率は42.2%となった。
- 街頭犯罪の認知件数は11万8,021件で、前年同期比で2.7%増加、侵入犯罪の認知件数は2万9,112件で、前年同期比で9.5%増加した。また、重要犯罪の認知件数は7,031件で、前年同期比で3.6%増加した。

※ データ全体の変化を100とした場合に、構成要素となるデータの変化の割合を示す指標

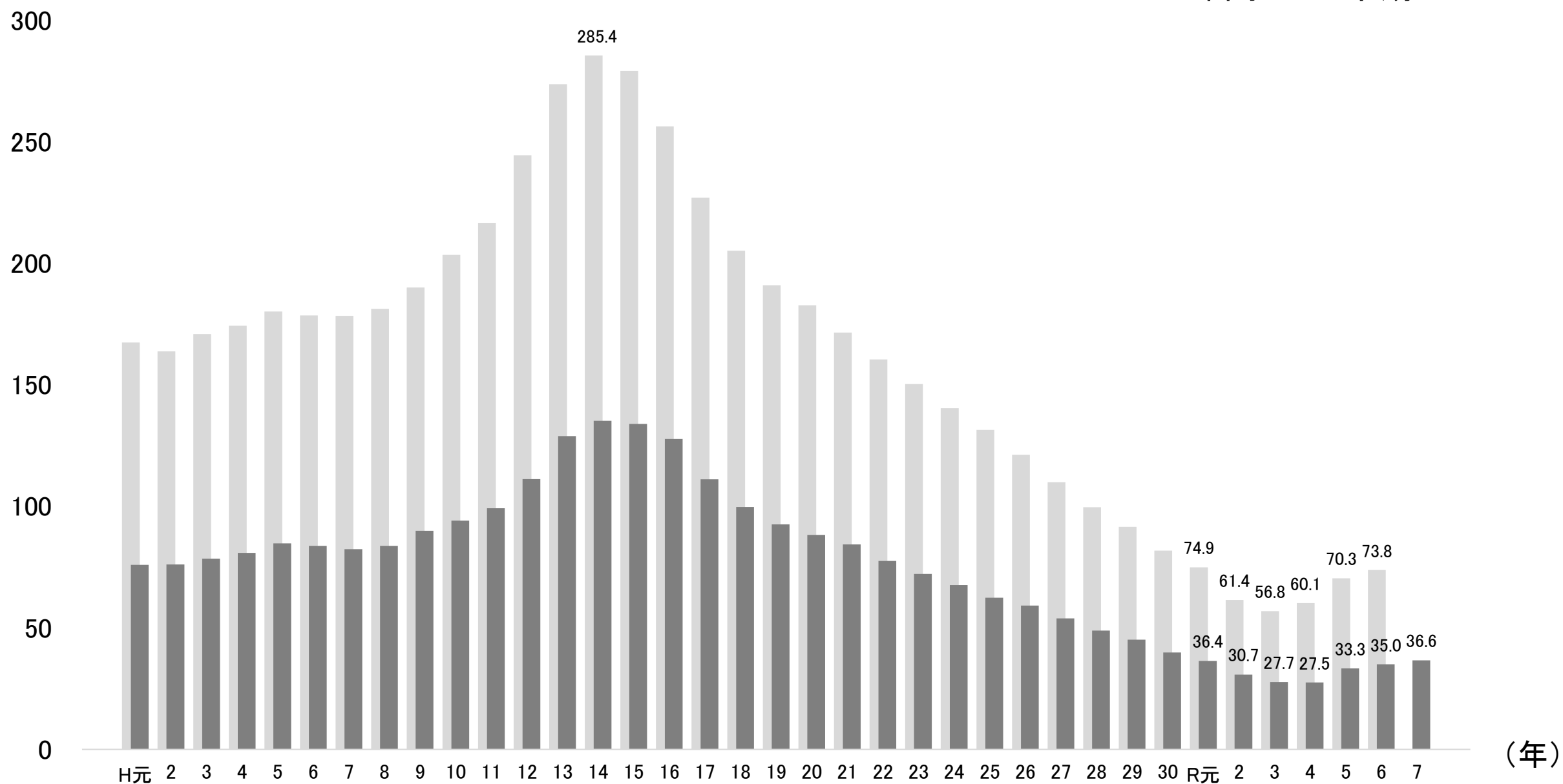
(2) 検挙状況

- 令和 7 年上半期における刑法犯の検挙率は38.6%で、前年同期比で0.5ポイント増加した。
- 重要犯罪の検挙率は84.2%で、前年同期比で1.3ポイント増加した。

※ 令和7年上半期の数値は暫定値。以下同じ。

(万件)

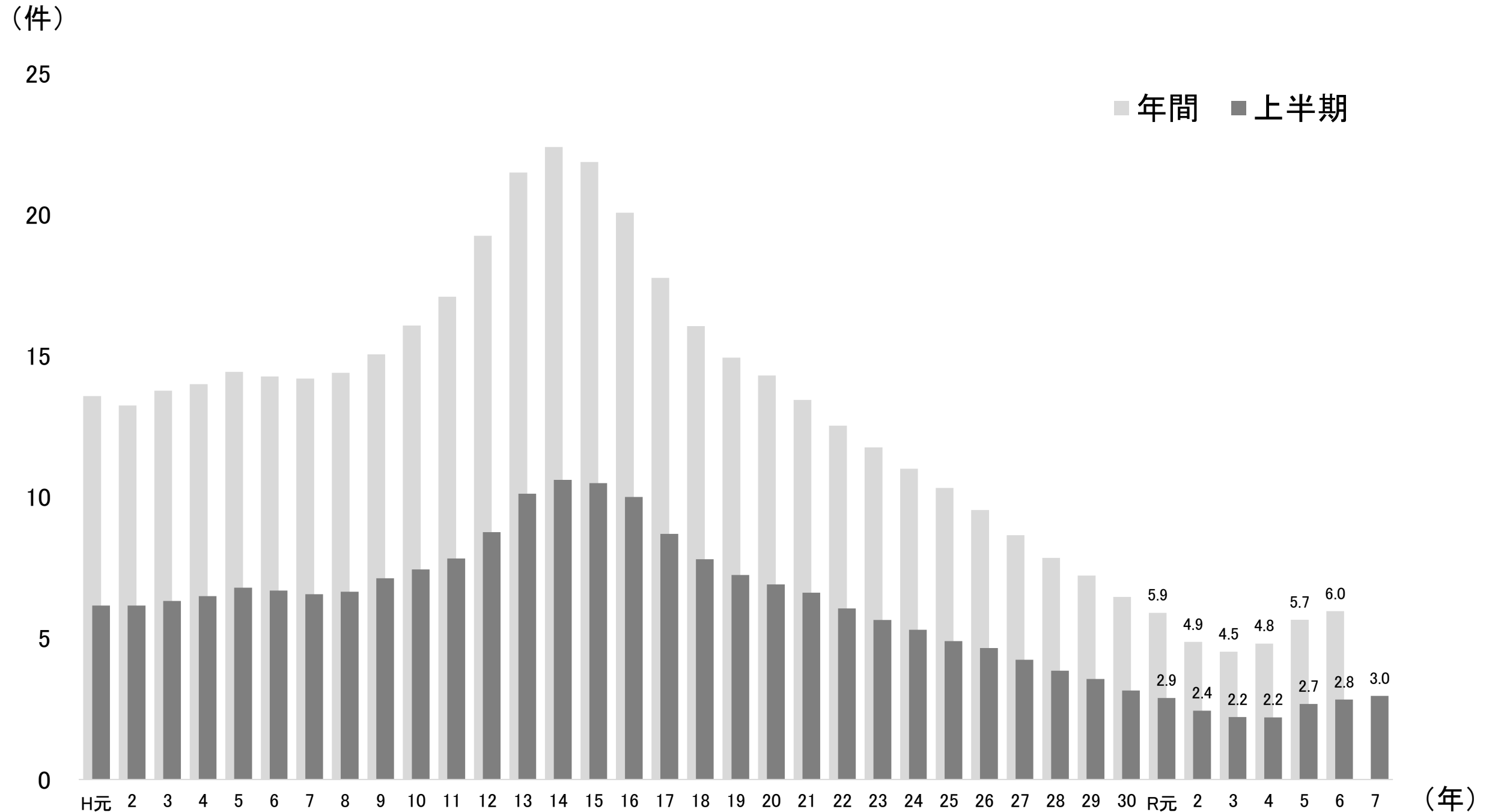
■ 年間 ■ 上半期



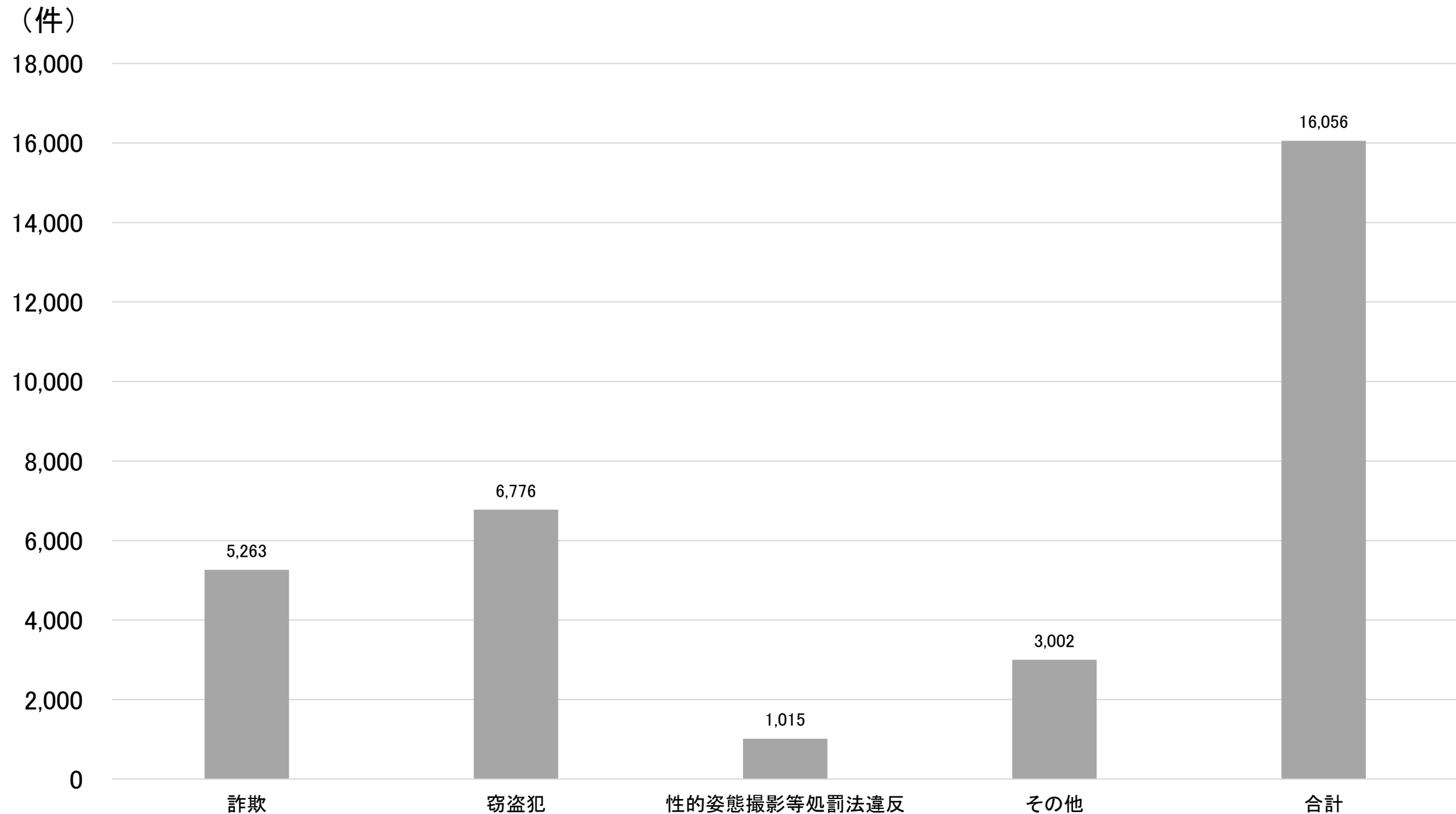
令和7年上半期における刑法犯認知件数は36万5,963件で、前年同期比で4.6%増加した。

人口千人当たりの刑法犯認知件数の推移

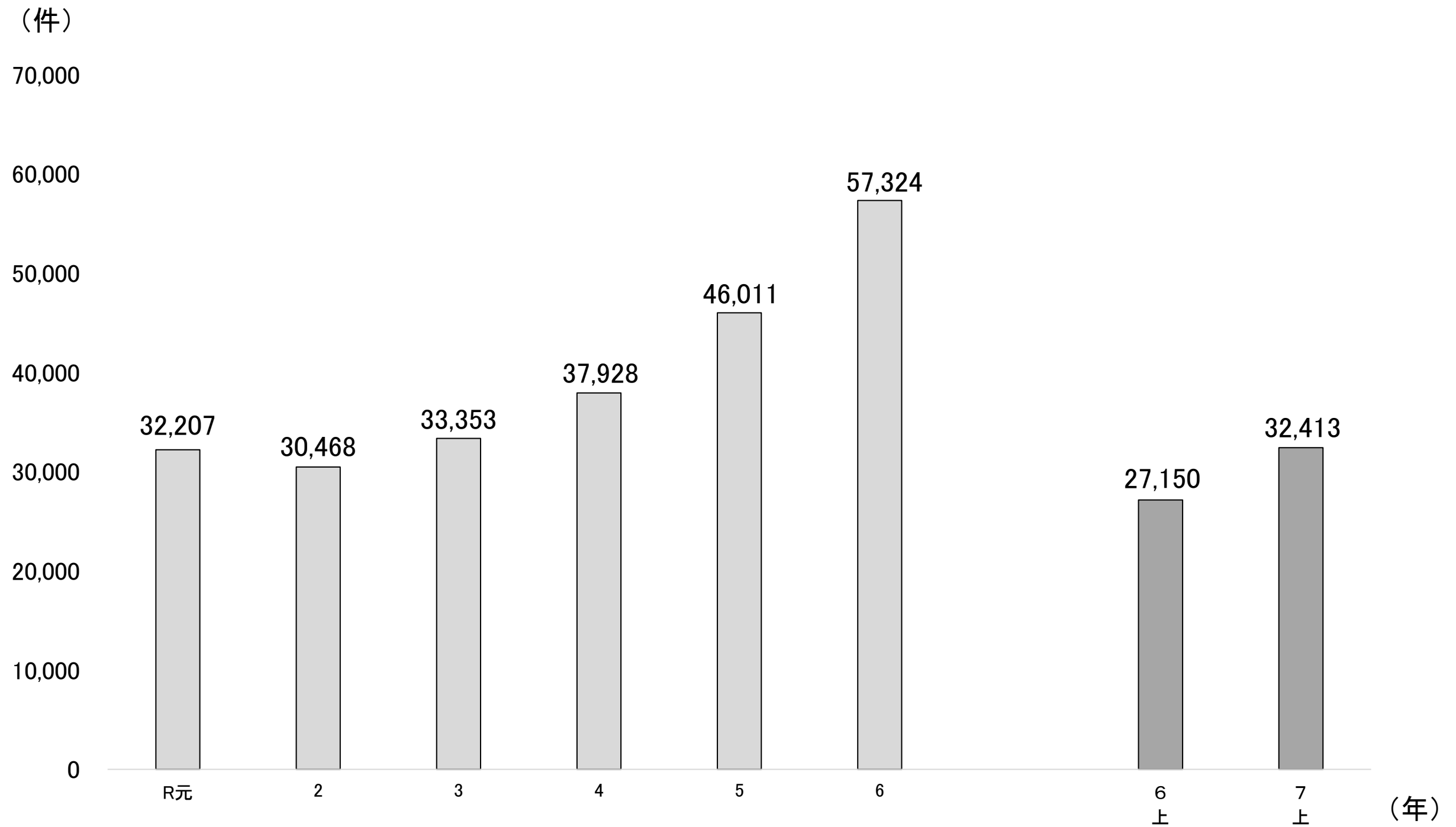
※ 人口は、総務省人口推計又は国勢調査人口による各年10月1日現在の総人口。
ただし、令和7年上半期は令和6年の人口。



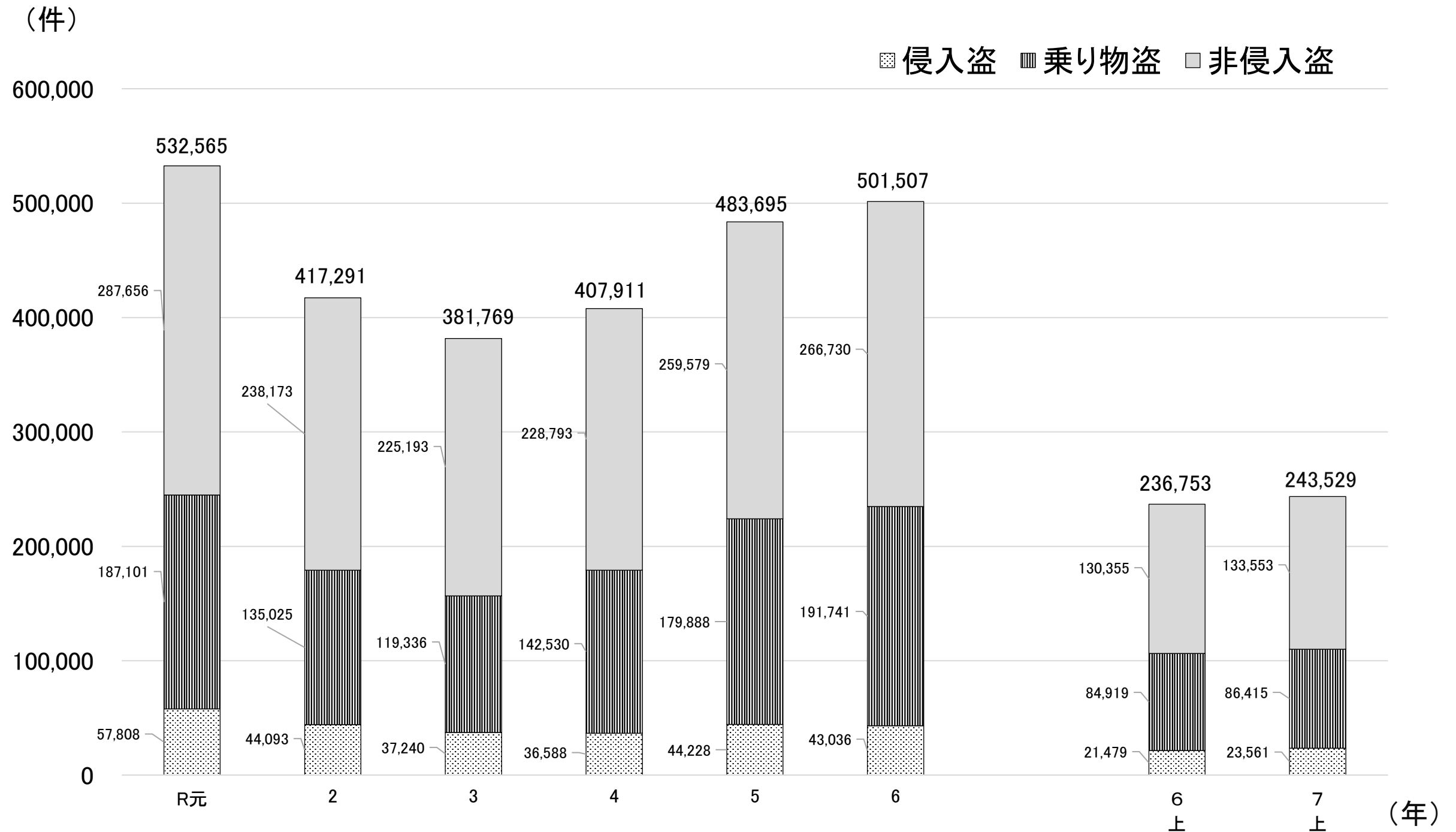
令和7年上半期における人口千人当たりの刑法犯認知件数は3.0件となり、令和6年(年間6.0件)の上半期(2.8件)から増加した。



令和7年上半期における刑法犯認知件数の前年同期からの増加の内訳を見ると、詐欺の認知件数が5,263件増加となり、刑法犯認知件数の増加に対する寄与率が32.8%であったほか、窃盗犯の認知件数が6,776件増加となり、刑法犯認知件数の増加に対する寄与率が42.2%であった。



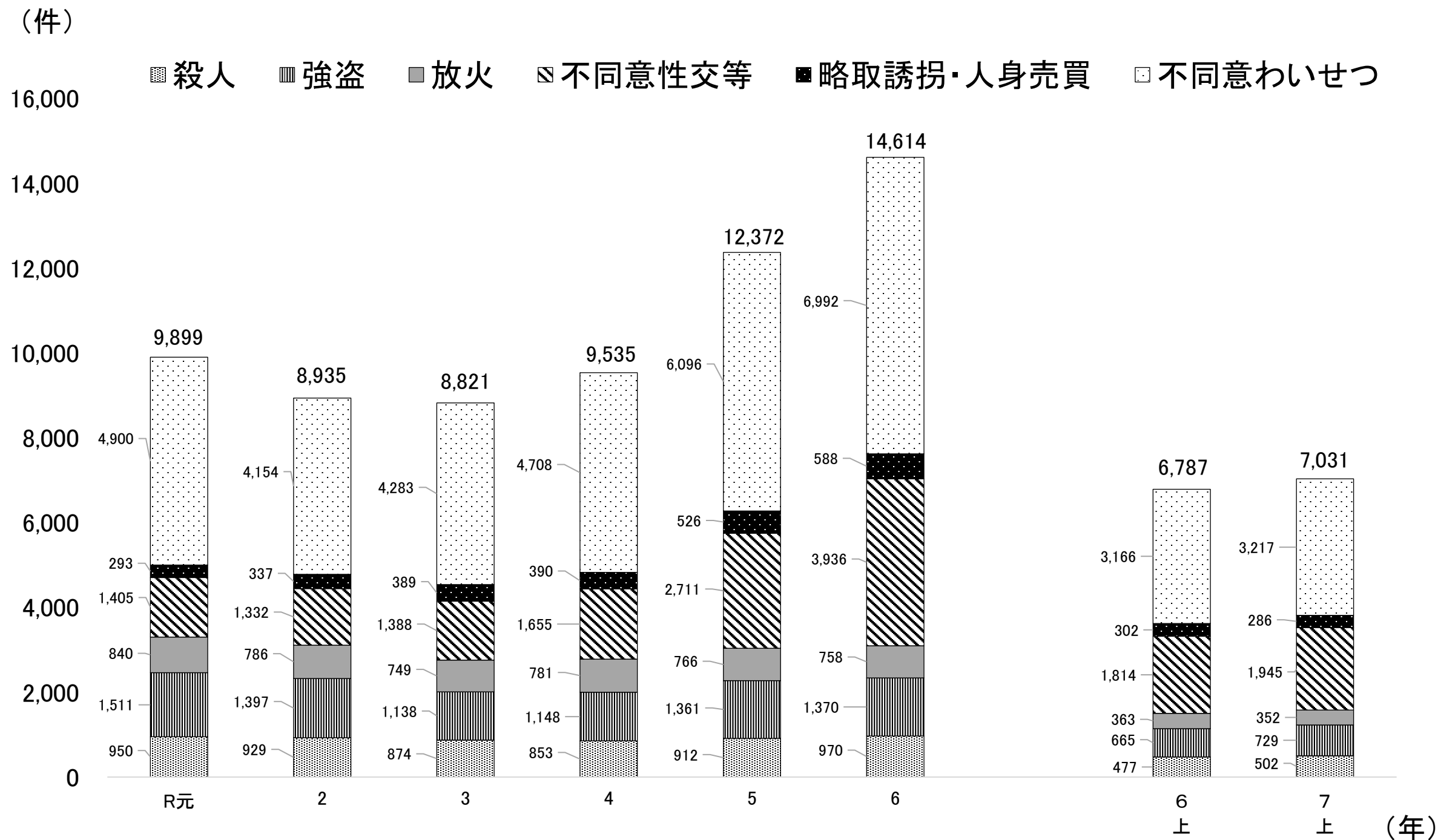
令和7年上半期における詐欺の認知件数は3万2,413件と、前年同期比で19.4%増加した。



令和7年上半期における窃盗犯の認知件数は24万3,529件と、前年同期比で2.9%増加した。乗り物盗では、自動車盗の認知件数が3,821件と前年同期比で29.2%増加、オートバイ盗の認知件数が6,911件と前年同期比で30.1%増加した。非侵入盗では、万引きが5万2,466件と前年同期比で6.6%増加した。

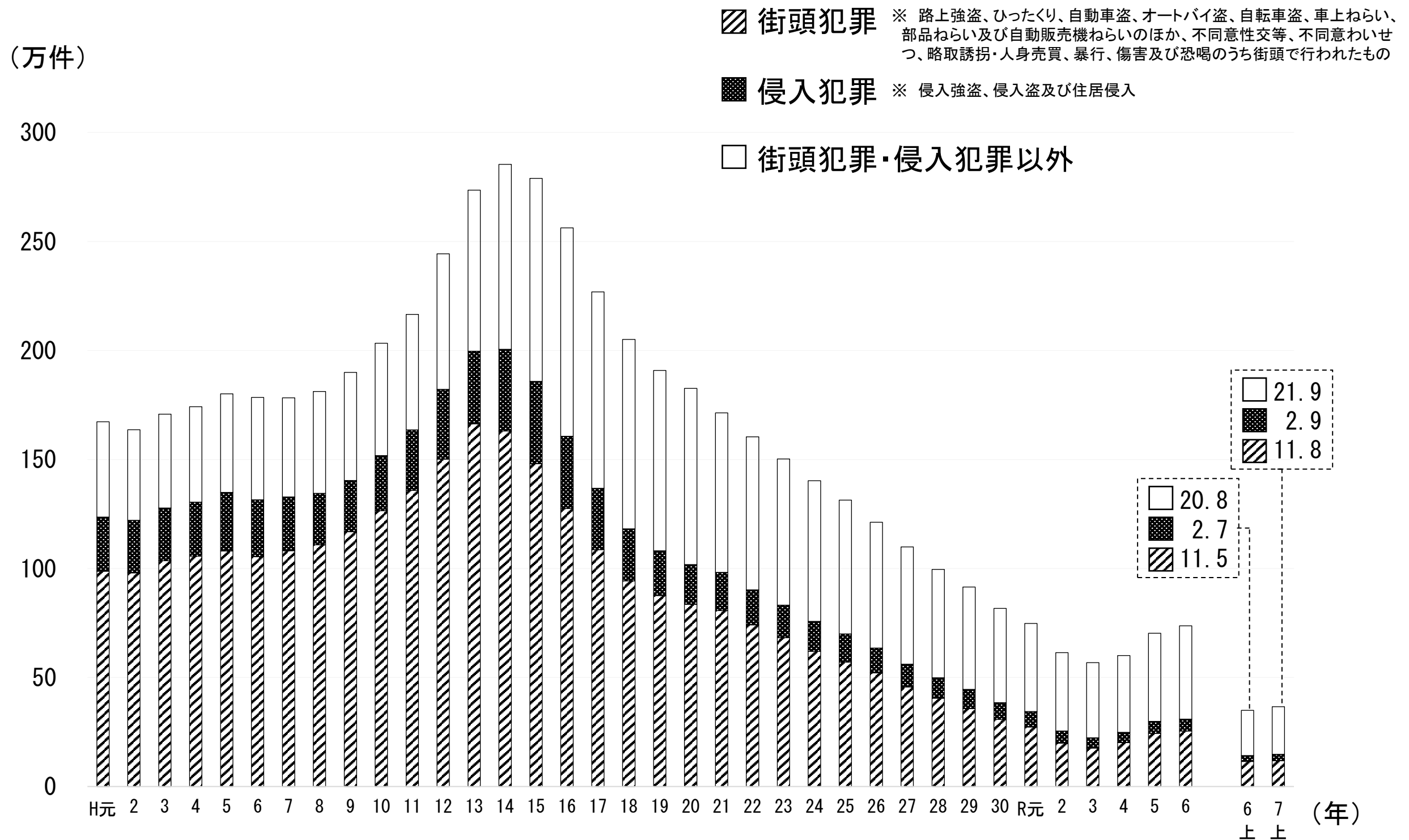
重要犯罪の認知件数の推移

(重要犯罪:殺人、強盗、放火、不同意性交等、略取誘拐・人身売買、不同意わいせつ)

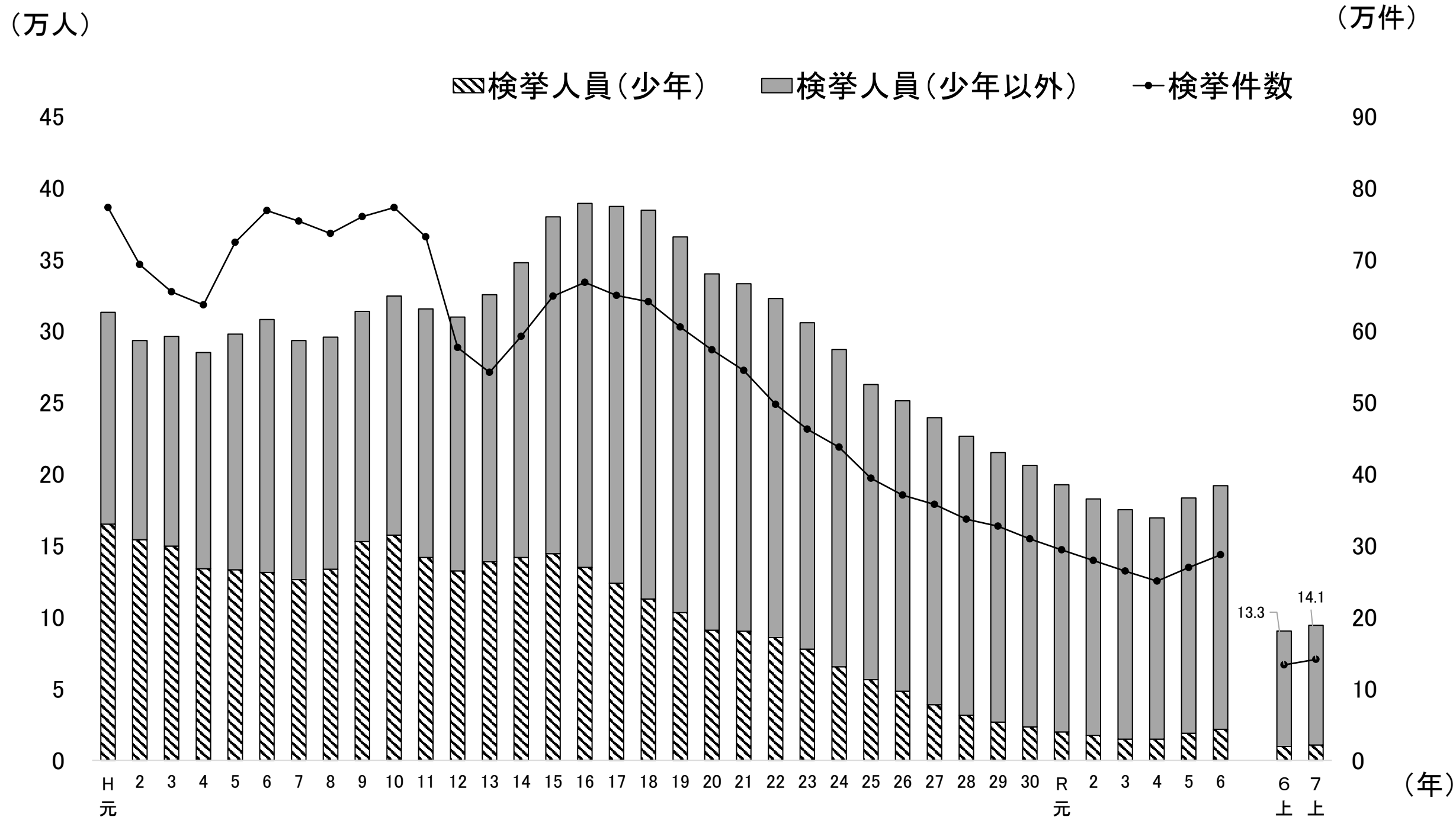


令和7年上半期における重要犯罪の認知件数は7,031件と、前年同期比で3.6%増加した。

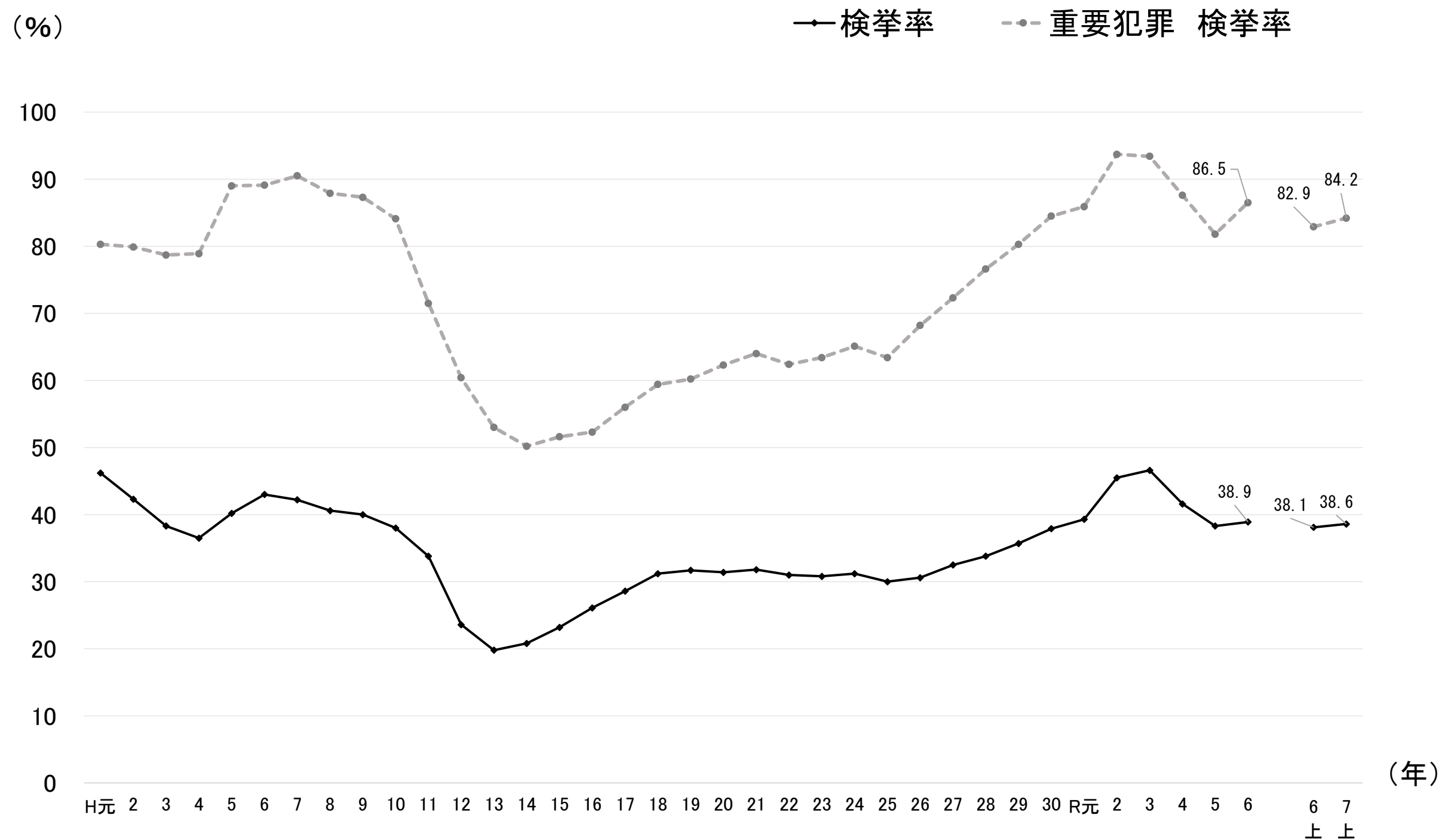
街頭犯罪・侵入犯罪の認知件数の推移



令和7年上半期における街頭犯罪の認知件数は11万8,021件となり、前年同期比で2.7%増加した。侵入犯罪の認知件数は2万9,112件となり、前年同期比で9.5%増加、街頭犯罪及び侵入犯罪以外の認知件数は21万8,830件となり、前年同期比で5.0%増加した。



令和7年上半期における刑法犯の検挙件数は14万1,195件、検挙人員は9万4,406人で、共に前年同期(13万3,489件、9万460人)を上回った(それぞれ前年同期比で5.8%、4.4%増加)。少年の検挙人員は1万769人で、検挙人員全体の11.4%となった(前年同期は全体の10.7%)。



令和7年上半期における刑法犯の検挙率は38.6%で、前年同期比で0.5ポイント増加、重要犯罪の検挙率は84.2%で、前年同期比で1.3ポイント増加した。